

2012 年度 CAJLE 年次 総会議事録

日時： 2012 年 8 月 2 日午後 5 時～ 6 時

会場： バンフパークロジリゾートホテル&カンファレンスセンター Summit Room

開票：本年度 CAJLE 会員実数 83 名のうち総会出席者 15 名、委任状 19 名。合計 34 名で会員実数の 10%を満たすことにより総会が成立した。

1. 出席者確認
2. 総会宣言：総会成立宣言：書記（ウッド）
3. 会長挨拶：大江会長
4. 議長選出：大江会長より下條氏が議長に指名された

5. 2010-2011 年度年次総会議事録の承認
昨年度(2010-2011)の年次総会議事録は、本総会にて承認された。

6. 報告事項：2011 年度活動報告及び 2012 年度活動予定

1) 書記（ウッド弘枝）

昨年 2011 年度の CAJLE 年次大会は、サスカチュワン州のレジャイナ大学で 8 月 5 日から 7 日まで三日間に渡り、国際交流基金、レジャイナ大学などの諸機関の援助とご支援のもとで開催された。本大会は、大会テーマを「日本語教育文法・コミュニケーション教育を考える」とし、カナダ国内、日本、アメリカ、香港などから三日間で述べ 133 人の活発な参加者があった。

8 月 5 日に行われた 2011 年度の総会では、各部署のチーフより年間の活動報告と 2011 年度の活動予定が報告された。部会活動においては、オンタリオ部会から昨年も活発な年間活動報告がされ、アトランティック部会からも、ワークショップ計画などの報告があった。

2) 発表企画（レベッカチャウ氏の報告を下條光明氏が代読）

募集については、昨年 11 月から今年 3 月にかけて、CAJLE ホームページ&会員メーリングリスト&ニュースレター、日本語教育学会ホームページ&メーリングリスト、ATJ ニュースレターなどの様々な機関や事務局などで研究発表を募集した。

応募数は例年より多目で 42 本あり、そのうち、上位 34 本が選ばれ 2 会場同時進行の研究発表セッションを 5 つ設けることができた。しかし、最終的には個人的な理由などで 30 名に減少した。選考にあたっては、発表企画担当 3 名が採否を決定した。

2013 年の計画は、例年のタイムラインと選考方法に沿って来年度もほぼ同じように募集・選考などを行う予定だ。

- 3) ジャーナル編集 (下條光明)
 - 2011~12年度は柴田智子、安部さやか、犬塚久美子、レベッカ・チャウ、下條光明の5名による編集委員会の構成で編集活動に携わった。
 - 2012年発行の13号は、掲載候補の投稿論文が11本あり、査読審査を経てそのうち6本を採択、それに昨年の大会講師の野田尚史先生によるご寄稿をあわせて掲載した。
 - 13号の査読協力者は、ジャーナル査読委員4名を含む22名で、投稿論文1篇につき査読者2名による匿名査読を行った。
 - 13号からジャーナルをオンライン化した。新刊および最近号2号はオンリーアクセス、それ以前のバックナンバーについてはオープンアクセスとなっている。バックナンバーについては現在アップロード進行中。
 - 次号14号もこれまで同様に大会講師による寄稿、および投稿論文の審査をへて掲載するものとする。

- 4) 広報 <及びウェブサイト> (青木恵子)
 - 2011年6月と2011年12月にニュースレター42号、43号を発行した。
 - 2012年3月にCAJLE開発企画部と高円宮日本教育研究センターのイニシアチブで新ウェブサイトが完成した。以後、広報・ウェブサイト担当と共同でコンテンツのアップ、メンテナンスを行っている。
 - 旧ウェブサイトから新ウェブサイトへのコンテンツ移動に関して、旧ウェブサイトではイベント時のスナップ写真を多数掲載していたが、今後は、集合写真や雰囲気伝わる後方から撮影した全体写真を掲載し、活動をアピールしていく。
 - また、ウェブサイトのBulletin Boardページでは、会員メーリングリストで流している学会・ワークショップ・公募案内などの情報を引き続き掲載する。情報提供をお願いしたい。
 - 今期からはウェブサイト担当者との役割分担を明確にし、さらに会員の皆様が利用しやすいウェブサイトにしていきたい。

- 5) ウェブサイト (小室リー郁子)
 - 通常業務：広報と協力し、提示版への情報アップ
 - 新ウェブサイトへの移行作業 (w/青木氏<広報>、下野氏・Caelan Marr氏<高円宮センター>)
 - 新ウェブサイトの立ち上げは主として高円宮センターと開発企画が担当
 - 新ウェブサイト公開後は、継続としてコンテンツアップ。必要に応じ新ページの作成。

- 6) 開発企画 (下野香織)

2011年度、開発企画部署は、新ウェブサイト構築(詳しくはNL2012年春版を参照)を中心に活動してきた。会費及び大会参加費支払いのオンライン化とともに、おそらく最大の変化はジャーナルのオンライン化への移行かと思う。他方で、大会参加補助への働きかけもし、アルバータ教育省が

ら大会二日目の「ネットワーキングランチ」に対してサポートを確保することができた。

7) J-GAP (有森丈太郎)

日本語教育グローバルネットワークのプロジェクトとして2011年1月より動き出したJ-GAPは Think Globally Act Locally の理念のもと、国際交流基金からの助成を受け、世界各地での日本語教育におけるアーティキュレーション達成に向けて活動しており、現在世界の9つの国と地域がプロジェクトに参加している。

CAJLE は日本語教育グローバルネットワークのメンバーとして、オンタリオ州トロントと周辺地域で、大学、高校、日本語学校の教師約20名からなるJ-GAP勉強会を立ち上げ、地域の継続学習支援の体制づくりを目指して活動を行っている。勉強会は2~3か月に1度の割合で開催しており、具体的には継続学習支援のツールとしてオンタリオ州の日本語教育機関のリストを作成し、プログラムの詳細情報と共にCAJLEのウェブサイト上で今年4月より公開している。また、3月には Association for Asian Studies の年次大会で、J-GAP アメリカと共にパネルディスカッションを行い、J-GAP の活動の紹介を行った。現在はCEFR、JF スタンダードを参考に、それぞれの日本語コースの到達目標をCan-do で表し、シラバスに盛り込むシラバスプロジェクトを行っている。

8) 部会活動：

a) オンタリオ部会 (有森丈太郎)

2009年12月より行っている「日本語学習を継続させる」シリーズというトロントと周辺地域の教師のための情報交換会を、今年も引き続き国際交流基金トロントと共催で開催した。他の教育機関でどのような日本語教育が行われているかを知ると同時に教師間のつながりを強め、継続学習支援につなげていこうという趣旨のもと、毎回大学、高校、日本語学校の教師20~30名が参加している。スカイプを使っての遠隔地との通信も行っている。昨年8月以降は10月、12月、5月、7月の4回開催。

通常2校の教師がプログラム、担当コースについて紹介を行う他、昨年12月の会ではトロントと周辺地域における学習者の減少についての現状報告と意見交換、今年5月には高校の日本語プログラムによる全校イベントの見学を行うなど、活動の幅も広げている。また昨年12月と今年7月は懇親会も行った。

また、3月にはトロント新移住者協会 (NJCA) 主催の『汎カナダ日本語教師合同研修／情報・意見交換会』にオンタリオ部会から2名が参加し、継承語教育の関係者を中心とした参加者に継続うシリーズの活動を紹介した。

今後の活動予定：第11回となる次回の「継続シリーズ」は2012年12月に予定している。その後も定期的に行われ、教師のネットワークづくり、

情報交換の場を提供したい。

b) アトランティック部会 (大江都)

アトランティック部会は、2011年11月から3月までの期間に、5回にわたって、「日本語を教えることを考える」と題するワークショップを開催した。対象は、大学で日本語のチューターをする学生、個人的に日本語を教えている人、そして自分の子どもに日本語を教えたい人たちなど。NB大学の西島美智子先生がリーダーとなり、私も二回、講師で参加させていただいた。最後の会は、スピーチコンテスト、アトランティック大会と時期を同じくして、国際交流基金のトウカー先生に来ていただき、「継承語としての日本語をどのように教えたらよいか」というテーマでお話いただいた。CAJLE会員は、二名ですが、ワークショップには、毎回、10名から15名の参加者があった。来年度も、何らかの形でこうした活動を続けたいと考えている。

7. 理事改選： 部署の再編成、新理事の報告と承認 (小室リー郁子)

- 小室リー氏より、開発企画部署の解散と新たに設置されたスポンサー部署の報告があった。
- 理事改選に当たっては、竹井明美氏と永富あゆみ氏が辞任。
- 現理事13名の継続に関しては満場一致で承認された。
継続理事：安部さやか氏、青木恵子氏、伊東義員氏、大江都氏、下條光明氏、白川理恵氏、小室リー郁子氏、下野香織氏、柴田智子氏、有森丈太郎氏、レベッカチャウ氏、ラム(畔上)智子氏、ウッド弘枝氏
- 新理事として、津田麻美氏(UBC)と岸本由紀氏(University of Regina)が満場一致で承認された。
- ジャーナル編集部署の校正補佐として、加山裕子氏(マニトバ大学)と渡辺文生氏(山形大学)が加わってくださった。

8. 2011-2012年度修正予算案の報告と遅滞のお詫び

大江会長より昨年度修正予算案報告の遅滞のお詫びがあった。修正予算案は、六月のニュースレターで報告された。また、今後、予算案に関しては会員からの承認を省き総会時で報告されるのみと説明があった。

9. 会計報告： 2012-2013年度予算案 (竹井明美)

2011-2012年度会計報告 (2012年5月31日現在)： 総会全員一致で承認された。詳細はCAJLE Financial Statement May 31, 2012を参照。
2012-2013年度会計予算案： 質問なし。

10. CAJLE By-Law 定款の改正についての報告 (大江都)

2014年までに草案を作成し、弁護士による正式な書類作成をするように努める。

11. 2013年CAJLE年次大会の予定 (大江都)

オンタリオ州のトロントが開催地予定だが、詳細は決まり次第報告。

12. 閉会の辞（下條光明）